

客観的な指標の算出方法

成績評価 / GPA 制度

本校では成績管理を厳格適正に実施するために成績評価の方法を定め、成績評価に基づいた学生個人の GPA を算出し客観的な指標としています。また、学科ごとに GPA の分布状況を学年度末に作成し、学生に対する学修指導等に活用しています。

■成績評価について

成績評価は 6 段階評価 (S～E) で行い、成績評価に対する GP (4～0) は下記表の通りとなります。

評価	合格				不合格	
	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	D(不可)	E(履修放棄)
評点	90 点以上	80 点以上	70 点以上	60 点以上	60 点未満	-
GP	4	3	2	1	0	0

- ・成績評価は前期末および後期末に行われる 2 回の試験点数と、科目ごとに定めた平常点（出席率、小試験、レポート提出等）によって算出された評点によって決定します。
- ・学則に定める「講義」「実習」「演習」の別により、原則としてそれぞれ筆記試験、実技試験を行います。
- ・実技試験においては実習内容に応じた評価項目を作成し、その項目ごとの到達点の合計を試験点数とします。

■不合格科目について

- ・不合格科目（不可、履修放棄を問わず）が一つでもあると進級判定、卒業判定を受けられません。
- ・不合格科目が一つでもあると成績証明書の発行ができません。
- ・不合格科目は前期末、後期末に行われる補講期間内に科目ごとに定めた、再試験を受け合格すること、補講授業を受けること、補講レポートを提出することで合格となります。

■成績評価から GPA を算出する際の計算式

$$(4 \times S \text{ の修得単位数}) + (3 \times A \text{ の修得単位数}) + (2 \times B \text{ の修得単位数}) + (1 \times C \text{ の修得単位数})$$

履修科目全ての単位数合計

■GPA 制度の実施時期

- ・GPA 数値の算出は学年度末の補講期間終了後、全ての授業科目の成績評価が確定する時期とします。

■GPA の活用

- ・就職活動の際に企業から GPA を求められた場合、成績証明書へ記載することができます。
- ・海外留学の際に大学等から GPA を求められた場合、成績証明書へ記載することができます。
- ・学生に対する個別の学修指導に活用し、成績の参考値、目標値として設定することができます。
- ・学内選考、優先順位が必要となる事象に活用する場合があります。